

こどもにすすめたい本 2024



『こしたんたん』
りとうようい／作
絵本館

山梨県内の図書館員が、昨年1年間に出版された図書の中から
「こどもにすすめたい本」110冊を選びました。

山 梨 県 立 図 書 館
山 梨 県 公 共 図 書 館 協 会



『あける』
はらぺこめがね／著
佼成出版社 ¥1,300 (税別)

「あけよう あけよう」。待ちきれない気持ちでふたを「ばかっ」と開けると、おいしそうなお弁当。次々にふたや包み紙、箱などを効果音とともに開けていく。おいしいものが出てくる期待感を、迫力のある絵と文字で表現している。



『うかぶかな？ しずむかな？』
川村康文／文 遠藤宏／写真
岩崎書店 ¥1,400 (税別)

水を入れた水槽に、おもちゃや粘土、ペットボトルを入れると、水に浮かぶのか沈むのか、予想しながら読む科学絵本。形を変えたり中身を減らすと結果も変わり……。次はどうなるのか、ページをめくるたびに想像力を刺激する。



『こしたんたん』
りとうようい／作
絵本館 ¥1,400 (税別)

こしたんたんと獲物を狙う虎や、狙われた動物たちの表情も楽しく笑いを誘う。テンポが良く繰り返しも多いので「虎視眈々」の意味を知らなくても自然と内容を理解できる。虎以外の動物もじっくり見ると、違う発見があり楽しい。



『ごちそうさま』
accototo／さく
大日本図書 ¥1,300 (税別)

今日のメニューはオムライスと味噌汁。材料はじいじが育てた人参としいたけ、ばあばが世話した鶏の卵と、大豆で作った味噌。食物を大切に育ててくれたことに感謝し、おいしく頂く様子を描く食育絵本。「じいじ ばあば ごちそうさま」。



『なにができる？』
キボリノコンノ／さく
PHP研究所 ¥1,400 (税別)

木材を削って彫って、色を塗り、出来上がったのは、何と「ゼリー」!? 木材から食べ物本物と見間違えほど精巧に作られていく。ページが進むにつれ使用される木材の数も増え、組み合わせで何ができるか想像が膨らむ絵本。



『はんぶんこ』
杜今日子／さく
福音館書店 ¥900 (税別)

ドーナツ、やきいも、おにぎりなどを「はんぶんこ」して、一緒に「いただきます」。はんぶんこすると、形が変わり、中身が見えておいしそう。おいしそうな食べ物の絵が魅力的な赤ちゃん向け絵本。



『ぼくはイーサヨまかせていーさよ』
こいでなつこ／著
山梨放送 ¥1,400 (税別)

紫色のぶどうのイーサヨは、友だちが欲しいのに恥ずかしくて声を掛けられない。しかし、ナスや玉ねぎが困っているのを見て、不思議な歌を歌い勇気を出し、野菜たちを助け成長していく。山梨の方言や、特産の野菜や果物も登場し楽しめる。



『ゆびのすうじへーんしん』
齋藤陽道／作 あわい／絵
アリス館 ¥1,300 (税別)

「いちと いちで なーに？ あたまに つのをつくろう えっへん えへん！ こわーい かおの…」手話の数字表現が、鬼や忍者などいろいろなものに変身する手あそびを紹介した絵本。自分だけの表現を見つけ、親子一緒に楽しめる。

その他のおすすめの本

『おじいちゃんのくしゃみ』

阿部結／作 福音館書店 ¥1,400 (税別)

『さわってもいい？』

はまのゆか／著 佐々木裕子／監修 めくるむ ¥1,800 (税別)

『ちいさな木』

角野栄子／作 佐竹美保／絵 偕成社 ¥1,300 (税別)

『つきはかがやく』

パトリシア・ヘガティ／文 ブリッタ・テッケントラップ／絵 木坂涼／訳 ひさかたチャイルド ¥1,800 (税別)

『どこどこ？ねどこ』

juno／さく 福音館書店 ¥800 (税別)

『どすこいみいちゃんパン屋さん』

町田尚子／作 ほるぷ出版 ¥1,500 (税別)

『とってもすてきなうちです』

なががわちひろ／文 高橋和枝／絵 アリス館 ¥1,500 (税別)

『どんぐりどんぐり』

降矢なな／さく 福音館書店 ¥900 (税別)

『ねぞうプロレス』

ひらぎみつえ／作・絵 教育画劇 ¥1,200 (税別)

『へんしん！』

北村直子／作 こぐま社 ¥950 (税別)

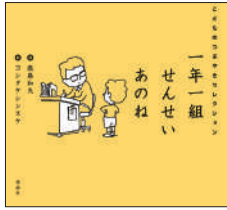
『もりのおへやをしょうかします』

茂市久美子／作 しもかわらゆみ／絵 講談社 ¥1,500 (税別)

『ゆきのひ』

サム・アッシャー／作・絵 吉上恭太／訳 徳間書店 ¥1,700 (税別)

小学生(低学年)向け



『一年一組せんせいあのね こどものつばやきセレクション』
鹿島和夫／選 ヨシタケシンスケ／絵
理論社 ¥1,500 (税別)

神戸市の小学校で鹿島和夫先生が担任した1年生の日記ノート「あのね帳」から、54のつばやきを選んだ一冊。思わず笑ってしまうものや感動するものまで、1年生から生まれた心を動かす言葉を、ヨシタケ氏のイラストと共に楽しめる。



『かえでちゃんとひみつのノート』
大久保雨咲／作 植田真／絵
小峰書店 ¥1,200 (税別)

転校で心細い気持ちのかえでちゃんは、ノートにクマに似た「もじゃりん」を落書きした。新しい学校での出来事を話すと、もじゃりんは温かく見守ってくれる。やがて、かえでちゃんの気持ちに変化が……。もじゃりんの視点で描く優しい物語。



『甲府の動物園物語』
三井ヤスシ／さく・え
ミツイクリエイティブ ¥1,000 (税別)

戦時中から戦後、甲府の動物園で、動物の命を守るために餌を手に入れたり、「猛獣処分」を防いだりや奮闘した小林承吉園長を描いた絵本。子どもたちに身近な動物園を通して、戦争や、平和の大切さを伝える一冊。



『その絵ときたら!』
ミシェル・マーケル／文 パーバラ・マクリントック／絵 福本友美子／訳
ほるぷ出版 ¥2,400 (税別)

ランドルフ・コールデコットは19世紀イギリスの挿絵画家。見るだけで物語がわかる、いきいきとした絵は人気を博し、後世の絵本画家にも影響を与えた。米国で最も重要な絵本賞である、コールデコット賞の由来となった画家の伝記絵本。



『トットちゃんの15つぶのだいず』
黒柳徹子／原案 柏葉幸子／文 松本春野／絵
講談社 ¥1,600 (税別)

トットちゃんが小学校2年生のときに戦争が始まった。当たり前だったことが失われ、食料が不足し、一日の食べ物は炒った大豆15粒だけになってしまう。大豆をいつ食べるかトットちゃんは悩んで……。女優の黒柳徹子さんの戦争体験を描いた絵本。



『はっばのほん』
いわさゆうこ／著
文一総合出版 ¥2,000 (税別)

身近な植物、野菜、果物、毒を持つものまで、130種類以上の植物の葉をイラストで紹介する一冊。葉の感触が伝わってくるような写実的な絵が魅力的で、巻末の解説を併せて読むと、より一層理解を深めることができる。



『目でみるえいごのずかん』
おかべたかし／文 やまでたかし／写真
東京書籍 ¥1,600 (税別)

英語では「大きな木に咲く花」を blossom、「草や大きくなならない木」に咲く花を flower と言う。spring のように同じ綴りでもバネと春という違う意味を持つ言葉がある。さまざまな英語を見開きの写真で比べながらわかりやすく説明する、見て楽しめる一冊。



『やさしいのはななんのはな?』
宮崎祥子／構成・文 網野文絵／写真
岩崎書店 ¥1,400 (税別)

野菜の花をじっくり見たことがあるだろうか？星の形の花や、とげの先に咲く紫色の不思議な花など、野菜の花の写真が紹介されている。「やさしいのはなだよ、なんのはな？」とクイズ形式で、楽しみながら知的好奇心が育てられる科学絵本。

その他のおすすめの本

『あさがおとはるくん』
キッチンミノル／さく PHP 研究所 ¥1,400 (税別)

『いろんないきものがぞくのかたち』
澤口たまみ／文 たしろちさと／絵 福音館書店 ¥1,400 (税別)

『おじいちゃんのくるみのき』
アミ=ジョン・バケット／ぶん フェリシタ・サラ／え ひさやまたい／やく 評論社 ¥1,600 (税別)

『おばあちゃんちのふしぎなまど』
シビル・ドラクロワ／さく 石津ちひろ／やく ほるぷ出版 ¥1,900 (税別)

『すいぞくかんのおいしゃさん』
大塚美加／ぶん 齋藤楓／え 福音館書店 ¥1,000 (税別)

『すもうのずかん』
オゼキサム／絵 藤井康生／監修 Gakken ¥1,300 (税別)

『世界でいちばんリクエストのおおいくつ屋さん』
十河孝男、十河ヒロ子／文 本田亮／絵 合同出版 ¥1,800 (税別)

『たいふうごま』
おくやまゆか／作 ほるぷ出版 ¥1,500 (税別)

『ちいさなふたりのいえさがし』
たかおゆうこ／さく 福音館書店 ¥1,000 (税別)

『どうぶつみずそうどう』
かじりみな子／作 偕成社 ¥1,500 (税別)

『ぼくのいぬはどうしてこんなにかわいいのか』
しゅん／作 えがしらみちこ／絵 KADOKAWA ¥1,300 (税別)

『ヨシ』
リン・コックス／文 リチャード・ジョーンズ／絵 いわじょうよしひと／訳 あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

小学生(中学年)向け



『おとな体験授業?』
なかがわちひろ/作
アリス館 ¥1,500 (税別)

今日はおとな体験授業。自分がどんな大人になりたいかを紙に書いてピーカーの液体に入れると、大人体験の世界へ。マンガ家になりたいあすかはなぜラーメン屋に。他のクラスメイトも、なりたい大人とは違う大人を体験すると……。



『挫折しそうなときは、左折しよう』
マーク・コロジョバンニ/文 ピーター・レイノルズ/絵 成田悠輔/訳
光村教育図書 ¥1,500 (税別)

理由もないのにうまくいかない日、「挫折」しそうになったら「左折」して、「モヤモヤ」「オロオロ」「ピクピク」「イライラ」する気持ちを道に置いていこう。抱えたままにするか手放すか、悩みとの付き合い方をユーモラスに描いた絵本。



『せんそうがおわるまで、あと2分』
ジャック・ゴールドスティン/作 長友恵子/訳
合同出版 ¥1,800 (税別)

同じ日、同じ町に生まれたジムとジュール。第一次世界大戦が勃発し、二人は兵士として戦地へ送られた。4年も続いた戦争は、1918年11月11日11時に終わる、と決定するが……。実際にあった出来事を元に、戦争のおろかさ、悲しさを描いた絵本。



『はじめての梅しごと』
高野紀子/作
偕成社 ¥1,400 (税別)

梅シロップの作り方を、豊富なカラーイラストを用いてわかりやすく説明している。梅シロップを使って作る飲み物やスイーツのレシピ、昔から梅の実で作られてきた梅干しなどの食品を紹介。子どもと一緒に「梅しごと」について学べる絵本。



『へそまがりの魔女』
安東みきえ/文 牧野千穂/絵
アリス館 ¥1,500 (税別)

呪いをかけられたが最後、逃げることはできないと言われている魔女のもとに、一人の少女が迷い込み、一緒に暮らすうちに互いに気持ちが通じ合う。やがて王国に王子が誕生すると、魔女が王子にかけた呪いは、「へそまがり」なものだった。



『ぼくは本のお医者さん』
深山さくら/文
佼成出版社 ¥1,400 (税別)

壊れた本を修理する「ブックドクター」として、製本会社の経営のかたわら、5,000冊以上の本を直してきた齋藤英世さん。本の修理を始めたきっかけやこれまでのあゆみ、本にまつわる思い出を大切にしたいという修理に対する思いを紹介する。



『ホッキョククジラのボウ』
アレックス・ボースマ/作・絵 ニック・パイエンソン/作 千葉茂樹/訳
小学館 ¥1,800 (税別)

200年前、北極海に1頭のクジラが生まれた。哺乳類の中で一番長生きするホッキョククジラの女の子・ボウだ。広い広い海を泳いでいたボウだったが、ボウが生きている200年の間に、北極海の環境は、人間によって大きく変化していく。



『リスのエビフライ探検帳』
飯田猛/著
技術評論社 ¥1,400 (税別)

森に落ちている「リスのエビフライ」。リスがどうやって作ったの? どうしてエビフライの形になるの? そんな不思議を豊富な写真で丁寧に教えてくれる。リスを始めとする森の生き物や、身近な自然への興味・関心を引き出す一冊。

その他のおすすめの本

『おばあちゃんのにわ』
ジョーダン・スコット/文 シドニー・スミス/絵 原田勝/訳 偕成社 ¥1,600 (税別)

『聞いて聞いて!』
高津修、遠藤義人/文 長崎訓子/絵 福音館書店 ¥1,600 (税別)

『暗やみに能面ひっそり』
佐藤まどか/作 アンマサコ/絵 B.L出版 ¥1,600 (税別)

『黒部の谷の小さな山小屋』
星野秀樹/写真・文 アリス館 ¥1,600 (税別)

『心をひらいて、音をかんじて』
シャノン・ストックァー/文 デヴォン・ホルスワース/絵 中野怜奈/訳 光村教育図書 ¥1,600 (税別)

『じゅげむの夏』
最上一平/作 マメイケダ/絵 佼成出版社 ¥1,500 (税別)

『すごいグラウンドの育て方』
金沢健児/著 Gakken ¥1,500 (税別)

『世界一長い鉄道トンネル』
笹沢教一/文 鈴木さちこ/絵 萩原まお/絵 Gakken ¥1,500 (税別)

『旅するわたしたち』
ロマナ・ロマネーシ、アンドリー・レシウ/作 広松由希子/訳 フロンズ新社 ¥2,200 (税別)

『ひと粒のチョコレートに』
佐藤清隆/文 junaida/絵 福音館書店 ¥2,000 (税別)

『ぼくんちの震災日記』
佐々木ひとみ/作 本郷けい子/絵 新日本出版社 ¥1,500 (税別)

『魔女の一日』
飯島都陽子/作 山村浩二/絵 金の星社 ¥1,800 (税別)

小学生(高学年)向け



『アゲイン』

あんずゆき／作 丹下京子／絵
フレーベル館 ¥1,400 (税別)

小学校6年生のアオイは、クラスメイトの八神さんから子ども食堂に誘われ、「子どもはタダだよ」と言われ驚く。フードロスが問題視されている反面、フードバンクや子ども食堂に支援を求めている人も多いことを知り考えるきっかけとなる。



『オリヒメ』

吉藤オリィ／著 加藤悦子／文
子どもの未来社 ¥1,500 (税別)

ロボットコミュニケーターの著者は、操作する人自身の分身となるロボット「オリヒメ」を開発した。病気や障害で外出が難しい人が、インターネットを介してオリヒメを操作し、多様な働き方をしている様子を紹介する。



『カタリン・カリコ』

増田ユリヤ／著
ポプラ社 ¥1,500 (税別)

2023年ノーベル生理学・医学賞を受賞したカタリン・カリコ博士。「病気に苦しむ人を助けたい」という信念で40年続けた mRNA の研究が、新型コロナウイルスワクチンの接種を可能にし、世界を救った。ワクチン開発と波乱万丈な彼女の半生を描く伝記。



『給食が教えてくれたこと』

松丸栗／著
くもん出版 ¥1,400 (税別)

「給食にはむだなものなんてない」、食べたなら「きつ」といふことが起きるよ」と栄養士に言われ、好き嫌が多い少年は一口食べてみた。すると、鉄棒が成功し、算数のテストが良い点に。少年は小学校の栄養士になり、給食日本一を目指し奮闘する。



『なんてくさいんだ!』

コリン・ペフ／文 ナンシー・カーペンター／絵 金原瑞人／訳
あかつき教育図書 ¥1,800 (税別)

イギリスのテムズ川は、かつてトイレの排水が流され、非常に臭く汚かった。コレラ流行を防ぐため、トイレの排水を集める新しい下水道を作り、川をきれいにして多くの命を救った土木技師、ジョゼフ・バザルジェットの活躍を描いた絵本。



『錦鯉を創る』

松沢陽士／写真と文
小学館 ¥1,300 (税別)

新潟発、世界を魅了する錦鯉の歴史と美をひも解く写真絵本。4年間の密着取材から生まれた本書は、美しい錦鯉が山間の集落でどのように育つのかや、新品种の創造にける人々の情熱を、豊富な写真で紹介する。



『人間になりたかった犬』

今西乃子／作 福田岩緒／絵
新日本出版社 ¥1,500 (税別)

おいしいものが食べられる人間に生まれ変わりたいと願う犬のシロは、生まれ変わりの条件「人間を救った犬」になる修行のため、昼間だけ少年に化け史郎と名乗る。学校に通い始めたシロは、友達になった春樹の悩み、苦しみを知り……。



『ぼくは地球を守りたい』

村木風海／著
岩崎書店 ¥1,400 (税別)

山梨県出身の著者は、小学生で「火星に行きたい!」という夢を持ち、二酸化炭素から食べ物を作る実験をした。化学者になった現在も続けている二酸化炭素の研究をわかりやすく紹介。コラムには簡単にできる実験があり、化学が楽しくなる一冊。

その他のおすすめの本

『命をつなぐセラピードッグ物語』

大木トオル／著 講談社 ¥1,500 (税別)

『海にしずんだクジラ』

メリッサ・スチュワート／文 ロブ・ダンラヴィ／絵 千葉茂樹／訳 藤原義弘／日本語版監修 B.L出版 ¥1,800 (税別)

『エール! 主人公なぼくら』

室賀理江／作 ふるり／絵 文研出版 ¥1,500 (税別)

『かげふみ』

朽木祥／作 網中いづる／挿画 光村図書出版 ¥1,600 (税別)

『金色の羽でとべ』

高田由紀子／作 小学館 ¥1,400 (税別)

『ご当地珍名見つけ隊』

高信幸男／著 恒春閣 ¥1,100 (税別)

『だれもみえない教室で』

工藤純子／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『図書館がくれた宝物』

ケイト・アルバス／作 榎田理絵／訳 徳間書店 ¥1,900 (税別)

『なんで、せんそうおわらないの?』

NHK ネットワーク報道部／編 青志社 ¥1,300 (税別)

『はじまりは一冊の本!』

濱野京子／作 森川泉／絵 あかね書房 ¥1,300 (税別)

『ひと箱本屋とひみつの友だち』

赤羽じゅんこ／作 はらくちあつこ／絵 さ・え・ら書房 ¥1,500 (税別)

『ぼくが選ぶぼくのいる場所』

吉富多美／作 金の星社 ¥1,400 (税別)

中学生・高校生向け



『**アフリカで、バッグの会社ははじめました**』
江口絵理／著
さ・え・ら書房 ¥1,500 (税別)

ウガンダでバッグを作る会社を起業し、雇用を生むことで女性たちを支援している仲本千津さんの半生を描く。医師や国連職員になる夢をあきらめ、銀行からアフリカ支援 NGO に転職し……と順風満帆でなくても、前向きに進む姿に勇気づけられる。



『**雨にシュ克蘭**』
こまつあやこ／著
講談社 ¥1,400 (税別)

真歩は、高校に進学しあこがれの書道部に入ったが、家庭の事情で通いきれず退学。無気力になったときに会ったのが、アラビア書道だった。美しい文字を見て、書きたい気持ちに火がつき……。シュ克蘭は、アラビア語で「ありがとう」の意味。



『**アンナの戦争**』
ヘレン・ピーターズ／作 尾崎愛子／訳
偕成社 ¥1,700 (税別)

第二次世界大戦中、「キンダートランスポート」により、ドイツからイギリスの家庭に引き取られたユダヤ人の少女アンナ。国に残した両親を思い、差別や恐怖を乗り越えて生きる少女の勇気ある行動と、深い愛で彼女を受け入れた里親家族の物語。



『**アンナは、いつか蝶のように羽ばたく**』
ウェイ・テム／著 冬木恵子／訳 山本真奈美／訳
アストラハウス ¥2,000 (税別)

オーストラリアの高校生アンナ。香港出身の母親は、異国での生活が合わず寝込みがち。中華料理店を営む父親は妻の心と向き合えず、家に帰ってこない。アンナは父親の店で働くローリーと親しくなるが、家事と弟妹の世話に追われ……。



『**美しい実験図鑑**』
さとうかよこ／著
新星出版社 ¥1,800 (税別)

虹色に輝く液晶を作る実験など、見ているだけでも楽しい、まるで魔法が錬金術のような雰囲気漂う美しい実験の数々。知っておきたい実験のポイントや手順、危険性なども写真で解説。QRコードから公式 Web サイトで一部の実験動画が視聴可能。



『**カビンくんとドンマちゃん**』
加藤路瑛／著 黒川駿哉／監修 中村至宏／絵
ワニブックス ¥1,450 (税別)

感覚過敏の中学生の男の子と、クラスメイトで感覚鈍麻の女の子。違う感覚を持つ二人が、学校の制服や食事などの日常生活で感じている悩みや葛藤を、感覚過敏当事者の著者がストーリー形式で解説。一人ひとり違う感覚特性への理解が深まる。



『**9月1日の君へ**』
代麻理子／企画・著
教育評論社 ¥1,800 (税別)

「若いあなたに死んで欲しくない」と願う大人たちによって作られたメッセージ集。「頑張らなくてもいいし、頑張ってもいい」「大人になっても、たくさん失敗する」。苦しいときに思い出してほしい一冊。



『**この夏の星を見る**』
辻村深月／著
KADOKAWA ¥1,900 (税別)

コロナ禍で部活動が制限される中、砂浦第三高校天文部による手作り望遠鏡で星を見つけるスターキャッチコンテンツは、茨城、東京、長崎五島列島をオンライン会議でつなぎ、やがて全国の中高生をつなげるイベントに広がっていく。

その他のおすすめの本

『**あした、弁当を作る。**』
ひこ・田中／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『**アップサイクル!**』
佐藤まどか／作 木内達朗／装画・挿絵 ポプラ社 ¥1,600 (税別)

『**いじめられっ子だった弁護士が教える自分の身のまもり方**』
菅野朋子／著 草思社 ¥1,600 (税別)

『**きみの話を聞かせてくれよ**』
村上雅都／作 カシワイ／絵 フレーベル館 ¥1,540 (税別)

『**10代が考えるウクライナ戦争**』
岩波ジュニア新書編集部／編 岩波書店 ¥900 (税別)

『**10代のうちに知っておきたい言葉と心の切りかえ術**』
大野萌子／著 笠間書院 ¥1,700 (税別)

『**鈴の送り神修行ダイアリー**』
山下雅洋／作 酒井以／画 岩崎書店 ¥1,300 (税別)



『じつは伝わっていない日本語大図鑑』
山口諤司／監修
東洋経済新報社 ¥1,400 (税別)

親が、自慢の子どもに「鼻が高いよ」と言っても、子どもには通じないかもしれない。親と子、上司と部下、年配者と若者といった世代間では、言葉の真の意味が伝わらないようだ。現代の若者には理解が難しい言葉をイラストや例文と共に紹介。



『13歳から考えるハンセン病問題』
江連恭弘、佐久間建／監修
かもがわ出版 ¥1,600 (税別)

ハンセン病とはどのような病気が、感染症に対する偏見や差別の歴史をわかりやすく解説する。新型コロナウイルスへのパッシングに見られるように、感染症への差別は身近にある。差別のない社会を作るために何ができるかを考えるための一冊。



『杉森くんを殺すには』
長谷川まりる／作 おさつ／装画・挿絵
くもん出版 ¥1,400 (税別)

高校1年生のヒロは、杉森くんを「殺す」ことにした。中学3年から不登校になった幼なじみの杉森くんは、自殺を図った。杉森くんのSOSを受け止められなかったことを後悔するヒロが、周囲の人たちに支えられながら、立ち直る日々を描く。



『中学生が伝える恐ろしいやまい・地方病』
堀真一郎／監修 南アルプス子どもの村中学校ゆきほたる荘／著
黎明書房 ¥1,700 (税別)

昔、甲府盆地に、お腹が膨らみ、やせて、やがて亡くなる病気「地方病(日本住血吸虫症)」があった。病気の原因が寄生虫だと突き止め、病気をなくす活動に関わった人々や努力について、中学生たちが調べ絵本にした。解説や参考資料付き。



『ぼっち現代文』
小池陽慈／著
河出書房新社 ¥1,420 (税別)

いつも「ぼっち」で人間関係を悩んだ経験を持つ著者の「人間関係を考えるうえで助けになった10冊の本」を読み解きながら、人と人のつながりについて考えることができる。国語に苦手意識を持っている人にもぜひ読んでほしい。



『ようこそ！富士山測候所へ』
長谷川敦／著
旬報社 ¥1,600 (税別)

標高の高い場所で通年観測を行うため建てられた富士山測候所。過酷な環境下でも諦めず、天気予報の発展を目指し奮闘した人々のあゆみと、自動観測技術が進み役目を終えた今でも、地球温暖化などの研究で使われている現在の姿を描く。



『夜空にひらく』
いとうみく／著
アリス館 ¥1,600 (税別)

アルバイト先で暴力事件を起こし、試験観察処分となった17歳の円人。補導委託先として、山梨県で煙火店を営む深見家に預けられた。円人は、深見とその家族、住み込みの花火職人たちの温かい心に触れ、自分自身を見直し、成長していく。



『ルール！』
工藤純子／著
講談社 ¥1,500 (税別)

中学2年生の知里は、校則違反でスマホを没収されたのをきっかけに、部活の仲間と一緒に理不尽な校則を変えようと考えた。生徒会と共に、無関心な生徒に働きかけ、PTAや地域住民の理解も得ながら、自分たちにふさわしい校則を作ろうと奮闘する。

『スマホアプリはなぜ無料？』
松本健太郎／著 河出書房新社 ¥1,420 (税別)

『ぼくらは星を見つけた』
戸森しるこ／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『つる子さんからの奨学金』
まはら三桃／作 偕成社 ¥1,300 (税別)

『夢の叶え方はひとつじゃない』
岡嶋かな多／著 PHP 研究所 ¥1,300 (税別)

『ハーベスト』
花里真希／著 講談社 ¥1,500 (税別)

『私の職場はサバンナです！』
太田ゆか／著 河出書房新社 ¥1,420 (税別)

『フォグ』
マルタ・バラツェージ／作 杉本あり／訳 Naffy／イラスト 岩崎書店 ¥1,600 (税別)

4月23日は「子ども読書の日」



こどもにすすめたい本 2024

令和6年3月31日

編集 山梨県立図書館

山梨県公共図書館協会「こどもにすすめたい本」編集委員会

発行 山梨県立図書館 山梨県公共図書館協会

〒400-0024 山梨県甲府市北口 2-8-1

TEL 055-255-1040 FAX 055-255-1042

URL <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

Eメール kodomo@lib.pref.yamanashi.jp



山梨県立図書館 HP

*山梨県立図書館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。

*本書掲載の記事、イラスト、写真等の無断転載を禁じます。

*本冊子は、保育所及び教育機関（幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高校、特別支援学校）におけるプリントアウト、コピー、無料配布ができます。

改変・切除などをご遠慮ください。